

図書だより



平成31年1月22日

担当 山本 尚美

No.16

ファミリー読書の感想です No.5

ファミリー読書についての感想、たくさんありがとうございます。今回は5年生の保護者の皆さんのコメントです。

この本は私も好きな本です。クレヨンそれぞれの色が自分の自己主張をして最後にはそれぞれの色を使って一枚の絵になります。人もそれぞれのカラーを持っていてそのよい部分がまとまってみんなでステキな何かができたらいいなと思いました。(クレヨンからのおねがい！)

野口英世は努力の人です。目標を決め、そのため大小様々な困難を克服する。知恵・工夫・人脈ありとあらゆる方法で立ち向かい偉業を成し遂げました。人間は人と関わることで成長します。成長とは人のために知恵・工夫を持って働くことができるということです。そんな大人になってほしいです。(野口英世)

一緒に日本の歴史についての本を読みました。小学生にもとても分かりやすい内容でまとめてある本なので、夢中になって読んでいました。歴史の勉強にもなるのでまた一緒に繰り返し読みたいと思います。(日本の歴史大辞典)

子どもには少し難しいストーリーでしたが、自由でいられるありがたさや、大切な人と出会い、自分よりも大切な存在ができたとき、人も猫も幸せなのだと思うことを、話をしながら一緒に本を読むことができました。

(100万回生きたねこ)

大地と純、お父さんとお母さん、それぞれが力を合わせて助け合う姿に感動しました。私も様々なチームに属す一員としてチームメートのために、つまりは文のために行動したいと改めて思いました。でも一番嬉しかったのは息子がかなり久しぶりにマンガ以外の本をとて集中して読んでいたことです。その意味でもファミリー読書がとてもいい機会になりました。(チームふたり)

久しぶりにこの絵本を読み、昔1人でトイレに行くのを怖がっていた娘と臆病な豆太を重ね合わせながら楽しんでいたことを思い出しました。おじいさんの具合が悪くなったときは豆太も勇気を振りしほりお医者さんと呼びに行くことができ、もちもちの木の輝きも見ることができました。子どもの頃から好きな場面です。(もちもちの木)

「病気の人に優しい言葉をかけてあげれば注射だって痛くない。『言葉は心のいたみどめ』っていうんで。」ってステキな言葉が書いてある本です。保健室にある道具たちの日曜日の出来事の話だけではなく、心が温まる内容の本でおもしろかったです。(保健室の日曜日)

娘が「今まで読んだ本の中で一番面白かったよ。」ということで楽しみにして読みました。途中はハラハラドキドキするような内容でしたが、最後はTVを壊しただけで怒らない、帰ってきてくれてよかったといった親の優しさも感じられる部分もあり確かに面白かったです。(この船地ごく行き！)

人と同じであることに安心感を覚えることも多いですが、違うことって当たり前なんだ、違うことって楽しいんだと改めて感じる絵本でした。(みえるとかみえないとか)

5年生では、保護者の方がじっくり本と向き合って感想を書いておられるのが印象的でした。次回は6年生です。